

強く煙を精合

露國戰勝笑話

○ロシア負け煙草の降状

骨皮道人

此露西亞負け煙草一名「士」が劣苦しい他の文明流の製法とい遠く沙漠の毛の餘計地は嘘八百の種を時附け懲罰的乾かして此露西亞人の製造したる負け惜みの口附られ、太平洋上への咳拂いの不釣合あれども、鼻元思案成り、慢急の面構へ、格空しく殊に海軍は用ふれば火附最も早くして最初煙は巻れて目が廻り、喉はど大頭痛を催はせども、暫くして海底まで身を落し、又陸軍まで一息して中味の粉名微塵たけ、其首がゴリりと轉げ、落るる者頗る多あり、體裁も武力などへ又用ひずして、破れ易き暴虎箠とし、價格も亦怪來の各國は買われ、ありしも、今殺日本は、片ツ端から吸ひ、ある者、根を、此際用は、念とて、二束三文の大買、勉、希、羽、利、の、笑、標、を、思、の、上、後、は、攻、吸、あ、ら、ん、を。

ロシア負け煙草

明治廿七年三月五日印刷 今年三月十日發行 再作中別換紙者 東京日新報社



豊田 齋

